

我が社 を語る



株式会社 富士設計

代表取締役

和田 潔 氏

【略歴】

昭和26年9月18日生まれ。大分市出身。大学卒業後、福岡県内の測量設計会社を経て昭和50年に父・和田文夫氏が創業した株式会社富士設計に入社。設計担当として民間の宅地造成設計や公共インフラの測量設計に携わり、平成5年に代表取締役役に就任。

現在、同社は建設コンサルティング業務、地上型3Dレーザースキャナーやドローン（UAV）等の最新技術を取り入れた測量業務を行っている。

「晴れてよし 曇りでもよし 富士の山～小なりと言えど、強くて、良い会社になり、小さい山から大きな山を目指す～」を長期ビジョンに掲げ、先代の「和」の精神を大切に、大分県のインフラを支える建設コンサルタント会社を目指す。

株式会社富士設計は、大分市に本社を置き、主に建設コンサルティング業務、測量業務を営む企業です。特徴的な取り組みとして「経営計画発表会」や「環境整備」を行っています。今回は、地域のインフラを支え、また最近の異常気象等による災害対応や防災減災に取り組んでいる同社の創業から現在に至るまでの会社の経緯や事業内容、今後の展望について伺いました。



聞き手

大分銀行
中島支店

支店長
小平 善久

測量・登記から建設コンサルタントへ —まず、創業について教えてください。

和田：当社は、昭和34年3月に創業し、来年で創業60年を迎えます。創業者である父・和田文夫が大分市城崎町にあった旧法務局前に一間間口の小さな土地家屋調査士事務所を開設したのが始まりです。

昭和37年、大分市が新産業都市に指定され、大分臨海工業地帯の郊外にベッドタウンの団地造成（ふじが丘、松が丘、宮河内等）が急速に行われていましたが、当社はそれらの土地境界確定測量・登記申請を業としていました。

当時、土地家屋調査士事務所は当社以外にもいくつかありましたが、先代である父・和田文夫はどんな現場にもすぐに駆けつけられるように四駆の車両を購入したり、紙の「鑽孔テープ」を記憶媒体としたコンピューターや図化機（現地で確定測量した境界点を自動的にプロット、結線する装置）を導入し、それまで手作業で確定図面に書き込んでいた作業を機械化したりしました。測量作業を他に先駆けて機械化したことが強みとなり、当社は多くの団地造成の仕事を手掛けるようになりました。

その後、大手デベロッパーが県内から撤退したり、官公庁が測量・設計の内作から外部委託へシフトしたことに伴う公共事業の受注拡大に対応するため、土木設計の分野にも進出、組織を拡大し、昭和45年7月に法人組織として株式会社富士設計を設立しました。設立当時は社員15名、売上1億円程度の会社でした。

会社のロゴマークは小さな富士の山と大きな富士の山が重なったデザインですが、これは「小なりと言えど、強くて、良い会社になり、小さい山から大きな山を目指す」という意味が込められています。当社はこの長期ビジョンを掲げてスタートしました。

—事業の転換について教えてください。

和田：創業時は個人や民間企業からの依頼を受け、測

量・登記をメインに行う会社としてスタートしましたが、第一次オイルショックによる高度経済成長の終焉に伴い、官公庁発注の道路・橋梁・河川の調査・設計業務を柱とする事業への転換に努めてきました。

測量、設計の技術者等の人材を採用し、官公庁の「県道の新設および改修」、「下水道の設計」の仕事や電力会社の「鉄塔、送電線の測量および登記」の仕事を開拓していきました。当時、当社は無名で業務の受注実績も無かったため、官公庁の仕事はなかなか受注出来ませんでした。受注した仕事は、とにかく顧客第一主義で納期を守り、品質の高い仕事をするので、実績づくりと真面目な会社であるというイメージ向上に取り組んでいきました。

以後、実績を積み重ね、現在の業種は「建設関連サービス業」で、9割以上が国土交通省や県、各市町村からの業務受注となっています。

—社長に就任した頃の心境を教えてください。

和田：私は平成5年に社長に就任しましたが、その時先代は65歳、私は42歳でした。先代はまだまだ心身ともに健康でしたが、自分の目の色が黒いうちに私を育てておきたいという思いがあったように思います。

社長に就任するとすぐに会社の実印を渡されましたが、実印を押す時に、その責任の重みを実感しました。

就任から今日まで、とにかく「売り家と唐様で書く三代目」というようなことにならないように心がけてきました。

私は福岡の測量設計会社での官公庁業務の経験を活かし、スクラップアンドビルドの「建設の時代」から「維持管理の時代」に対応すべく逸早く取り組んできました。先代の新しい技術を先取的に導入する姿勢、私の経験やノウハウを次の代にしっかり伝えていきたいと思っています。



3次元計測により取得したデータを3次元モデル化

地域の要望をもとに社会インフラを作る仕事

— 御社の事業内容について教えてください。

和田： 当社は、地域社会の安全安心に資する公共インフラを建設するための事前調査や測量、設計といった川上の部分を担当しています。

例えば、新しい道路を計画して建設する場合、現場を測量し、地域の要求や自然条件を地形測量・縦横断測量により調査した上で、発注者である自治体に納品するための報告書と設計図書を作成するのが当社の業務です。その後、自治体が施工業者へ工事を発注します。

業務の柱としては、社会インフラの補修・補強等を行う「老朽化対応」や渓流や斜面およびその下流など土砂災害により被害を受ける恐れのある区域の地形や地質、土地の利用状況について調査を行う「基礎調査」の2つが挙げられます。

最近では、高度経済成長期に建設された社会インフラの老朽化が社会問題となっています。平成24年には笹子トンネル天井板落下事故が起き、これをきっかけに道路法が改正され、平成26年7月から道路インフラの5年に1回の定期点検が始まりました。それ以降、道路・橋梁・トンネル等の点検・調査・補修・補強業務が増加しています。これらの業務は非破壊・損傷調査技術でも対応できるようになった部分もあります

が、まだまだ人による目視点検や破壊調査が必要です。

また、異常気象により引き起こされる河川・道路の災害対応も行っています。平成29年の日田豪雨災害や台風18号災害での復旧対応は工期も短く、崖や高所等の危険な現場での作業（現状調査、推定土量の算出）でしたが、UAV（ドローン）を活用した撮影、計測を実施し、安全かつ迅速に対応しました。

— 「橋梁ドクター」を商標登録されていますね。

和田： 各自治体が限られた予算の中で効率的な道路構造物の維持管理を進めていく上では「長寿命化修繕計画」を策定する必要がありますが、自治体に専門家がいなくても点検が行えるよう、平成5年頃から老朽化した橋梁の「簡易目視点検による橋梁維持管理システム（＝橋梁ドクター）」を福岡大学工学部社会デザイン工学科構造力学研究室と共同開発し、平成16年に「橋梁ドクター」を商標登録しました。

このシステムは私がリーダーとなり4社共同（株式会社富士設計、株式会社九州開発エンジニアリング、大成ジオテック株式会社、大福コンサルタント株式会社）で開発したもので、点検項目をマニュアル化することで専門知識が無くても橋梁の劣化の程度を評価、判定することができます。現在では熊本県内の自治体がこのシステムを採用し、橋梁長寿命化修繕計画を作



橋梁点検の様子



地上型3Dレーザースキャナー



経営計画発表会の様子



朝の「環境整備」

成する際に使用されています。

—特徴的な取り組みについて教えてください。

和田：グループ会社である株式会社構造診断技研（和田社長が会長を兼任）とともに最新の機器を逸早く導入するなど非破壊点検技術に力を入れています。デジタルカメラや赤外線カメラによる画像解析技術（デジタル画像解析によるひび割れ調査やサーモグラフィによる損傷調査）には自信があり、新日鐵住金大分工場の護岸検査業務等の実績があります。

また、ICT技術への取り組みとして測量業務においては、地上から短時間で広範囲の3次元空間情報を取得できる3Dレーザースキャナー、上空から短時間で広範囲の撮影ができるUAV（ドローン）による3次元計測や、調査設計業務では3次元データを使って3D-CADやVRでモデル空間を作成し、発注元に提案をしています。モデル空間とは完成予想図のようなもので、例えば、車の運転手から道路の案内表示がどのように見えるかを早く正確にシミュレーションすることができ、提案がより説得力のあるものになります。

長年続いている独自の取り組み

—毎期「経営計画発表会」を実施していますね。

和田：「経営計画発表会」は18期（昭和62年）から続いており、今年で31回目になります。毎期、期初に開催し、経営計画書をもとに社員および関係者（弁護士、税理士、大分銀行中島支店支店長）に短期・長期ビジョンを説明しています。

経営計画書の作成には大変な労力を要しますが、経営計画を提示した以上は経営者の考えがブレないこと、経営計画発表会により経営理念が浸透し、社員全員のベクトルが揃うことが良い点だと思っています。

また、毎週朝礼を実施し、方針や価値観を全社員で共有しています。この時、本社と福岡支店で温度差が出ないようにテレビ会議を活用しています。

—「環境整備」について教えてください。

和田：「環境整備」は経営計画発表会と同じく18期から30年続いている取り組みで、毎日就業開始後15分間、月1回45分間、私も含め全員で社内と会社周辺の道路の清掃を行っています。ボランティアとして清掃活動を行っている会社は他にもあると思いますが、仕事の一環としてやっている会社は少ないと思います。

当社では「環境整備」を全ての行動の原点であると考え、仕事の一環として取り組んでいます。

名刀を作った刀鍛冶と同じで「よい環境でないとも良いものは作れない」という私の恩師の言葉が「環境整備」を始めたきっかけです。

品質の確保と向上に非常に効果があり、実際にクレームも最小限に抑えられています。身のまわりの清掃を行うことで社員が細かいところに気づくようになったからだと思います。

より良い職場環境を目指して

—人材育成で力を入れている点について教えてください。

和田：人材育成は本当に難しい、永遠の課題であると感じています。土木という仕事は「縁の下の力持ち」であり、「人知れず微笑む」地味な職種です。道路や橋は当たり前のように存在していますが、それが当たり前ではないということに災害等が起こった時に初めて気づかされるものです。

車で通る際、何年も前に自分が関わった道路が活用されているのを見ると誇りに思います。誰も気づかない、誰も褒めてくれない、あまり表面には出てこない仕事ですが、世の中に無くてはならない身近な社会インフラを建設・保全する仕事であり、誇りを持てる仕事であると社員に伝えています。

—社内教育制度について教えてください。

和田：私たちは建設コンサルタントの資格集団ですので、資格の取得支援（受験料負担や一時金）と資格手



トンネル点検・補修業務の様子

当を設けています。また、毎月1回上司が面談を行い、資格取得に向けたフォローを行っています。

社員は会社の大切な資産であり、この資産を更に良いものに変えていくことが大事だと考えているので、これからも様々な支援を行っていきます。

—福利厚生制度について教えてください。

和田：平成30年7月から、非喫煙者のタバコ休憩への不満を受け、「非喫煙者への有給休暇追加制度」として、元々タバコを吸っていない社員に2日の有給休暇を追加で付与しました。その他、健康相談の推奨、健康器具の設置など、会社による社員の健康づくりへの取り組みが評価され、平成30年度も大分県から健康経営事業所の認定をいただくことができました。

また、女性社員がより活躍できるように育児休業制度の見直しを続けており、育休に加え、子の看護休暇の取得者も出ています。

社員にはずっと当社に定着してもらいたいので、基本方針として「社員の生活の安定と調和を図る」を掲げ、福利厚生制度の拡充に取り組んでいます。その取り組みを社員も理解してくれているのか、他社と比較した訳ではありませんが、社員の定着率は高いと感じています。

人材確保にむけて

—経営上の課題について教えてください。

和田：1つ目は「求人」です。新卒を採用するのが難しく、特に中小の零細企業だと知名度も低く、なかなかエントリーしてもらえません。先に述べた「社内教育制度」「福利厚生制度」は当社の魅力の一部ですが、今まではその魅力をアピールする工夫が足りませんでした。現在は大手就職情報サイトを活用し、当社の魅力をアピールしているところです。また、せっかく入社しても定着しなければ意味がありませんので、当社に居ると楽しい、そういう環境づくりを目指し仕事面

ではチームワークを大事にし、仕事以外では社内旅行、登山などのレクリエーションや飲みニケーションにも力を入れています。

2つ目は「働き方改革」です。災害が発生した場合は復旧が優先ですので休めないこともあります。また、工期が年度末である3月に集中するため、2～3月はどうしても長時間労働となってしまいます。ノー残業デー導入や書類のペーパーレス化、グループウェアでのスケジュール共有による長時間労働の改善に取り組んでいます。

3つ目は「事業承継」です。幸いなことに次の社長候補はいますが、私自身が父から受け継いだ経営の手腕等を上手く伝え、育てていかなければいけません。また、次期社長を支える中堅管理者層の育成も大切だと感じています。当社の社員は、技術面は優れていますが、マネジメント面では今一步及ばないと思っています。社内教育体制を整え、これからは私が経営計画を作るのではなく、彼ら中堅管理者層が中心となって経営計画を作っていくような組織にしていきたいと思っています。

—新たな人事評価システムの構築を進めていますね。

和田：働きがいのある職場にするために、社員も巻き込んで人事評価システムの構築を進めています。評価、報酬、個人の目標管理とリンクする人事評価システムを構築することで社員の定着率も向上し、良い人材が確保できると考えています。

また、これらの魅力的な取り組みをホームページや就職情報サイトでアピールすることで、当社のような小さな会社でも興味を持ってエントリーをしてくれるようになると思っています。

安全安心の社会環境の創造を目指して

—今年の6月に新社屋に移転していますね。

和田：近い将来、南海トラフ巨大地震は必ず発生する

とされています。その対策として、危機管理体制の強化、BCPの改善が必要だと考えています。

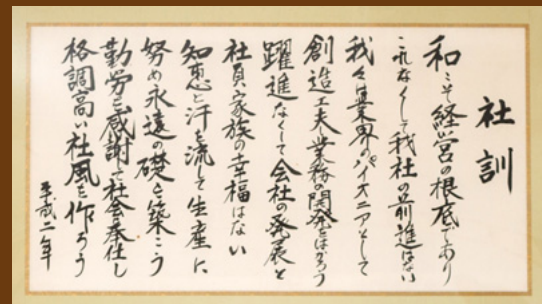
南海トラフ巨大地震への備えとして、災害時も事業を継続できるよう、平成30年6月に社屋を大分市城崎町から大分市羽田へ移転しました。また、当社敷地内に災害時用の防災井戸も建設しました。井戸は平成30年10月に完成し、普段は環境整備の際に掃除用の水として使用しています。

—今後の展望について教えてください。

和田：急速に進む少子高齢化のなか、公共事業費の減少は避けられない厳しい時代です。一方、維持管理や道路補修等、社会インフラの整備と保全是必要不可欠です。そのような中で当社が生き残っていくためには、コアコンピタンス、つまり、他社が真似できない独自の技術を確立する必要があると思っています。そのためにも、新しい技術を構築、総合技術力を強化し、経営理念の実現を目指していきます。これは難しいことですが、「失敗してもいいから、やり続けていくことが大事」ということを念頭に積極的に取り組んでいきます。

平成30年7月、国土交通省九州地方整備局佐伯河川国道事務所の平成29年度佐伯管内測量設計業務においてスピーディな災害対応、成果品の品質の高さ、VR（3次元モデル）で提案した点が評価され、業務部門と個人部門で局長表彰をダブル受賞しました。これをきっかけに更なる市場開拓を行い、技術水準を次のステージに高めていきたいと思っています。

創業者・和田文夫が大切にしてきた「和」こそ当社の経営の根底であり、和=思いやりの心です。つまり、社員全員が目線を同じくし、相手を思いやって仕事をするというを大切に、これからも大分県の社会インフラのために業務に取り組んでいきます。



会社概要

- 会社名 株式会社富士設計
- 設立 昭和45年7月
- 資本金 12,000千円
- 従業員数 54名
- 事業内容
建設コンサルタント、測量、
補償コンサルタント
- 所在地
〒870-0942
大分県大分市大字羽田930番地1
TEL 097-574-5318
FAX 097-574-5313
URL <https://www.fujise.co.jp/>